



「へべす」の産地化に向け農業参入企業が農地集積

にしかわちちく

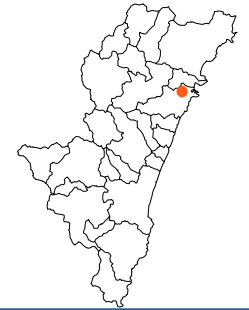
(宮崎県日向市西川内地区)

中山間地域等
条件不利地域

地域の状況

- 日向市特産の「へべす」**発祥の地**である西川内地区は、市北東部に位置し、周辺を山に囲まれた水田地帯であるが、農業者の高齢化や担い手不足が進行。
- この課題解決を図るため、H21年、「富高の郷いきいき営農組合」を立ち上げ、H26年から離農者等に係る農地情報を共有し、農地利用最適化に向けた話し合いを開始。
- H28年、人・農地プランを策定し、農地バンクを活用して集積を進めていたR元年8月、本地区で「へべす」の栽培を希望する地元企業(建設会社)から同組合に農地借受けの相談があったことから、同組合は企業受入れの検討を開始。

宮崎県日向市



取組の内容

- ① 同年9月、当該法人が地元説明会を開催。これを受け、農地や水路の維持管理や鳥獣害対策に中心的に取り組む**同組合役員**(農業委員や農地利用最適化推進委員も兼務)が、**地権者など関係者に直接戸別訪問**し、事業内容や各種事業活用のメリット等を丁寧に説明を行ったことにより、関係者の理解を得ていった。
- ② ①の結果、当該法人の受入れを決定し、同年12月、当該法人が新たな農業法人を設立。
- ③ R2年2月、当該法人は、県の補助事業を活用して**雇用体制整備**を行うとともに、県普及センター及びJA日向が中心となり、法人の営農に向けた**技術的支援**(栽培技術等の指導)を開始。
- ④ 同年4月、「へべす」の定植が可能となるまで一定期間を要することから、当該法人の円滑な参入に向け、経営準備期間中に**農地バンクが参入予定農地を中間保有**。
- ⑤ R3年3月、当該法人は農地バンクから対象農地を借り受け、本地区内の農地(2ha)を集積。
- ⑥ 同年6月、日向市は、**水田畑地化による「へべす」の産地化**を目的とした「水田農業高収益化計画」を策定し、市全域で新規就農者を含めた担い手への農地集積・集約を推進中。



西川内地区の田園風景

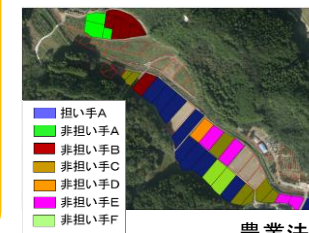


法人・関係機関での現地検討

成果

- 本地区及び隣接する本谷地区では、上記と同様に、**営農組合を中心とした地元の合意形成**を図った結果、当該法人のほか2企業が参入(有機農業、挿し木)し、本地区内における**農地バンクによる農地集積率は62%**(集積面積36ha)に上昇。
- **農地バンク**のほか、関係機関(市、農業委員会、JA及び県普及センター)の**連携したサポート**により、当該法人はスムーズに「へべす」の栽培を開始するとともに、今後、他地区において農地バンクを活用して遊休農地(水田)を集積し、大規模な「へべす」団地を形成予定。

バンク活用前



バンク活用後



農業法人Hの集積状況